

2018年

9月

中国四国農政局
高知県拠点

News Letter

鶏を鶏らしく育てる、土佐ジローの魅力

安芸市

高知県の東に位置する安芸市の海岸から、約40分ほど山道を入った畑山地区で、地鶏「土佐ジロー」の養鶏・販売・加工等に取り組んでいる「(有)はたやま夢楽(むら)」代表取締役会長の小松靖一さんは、「高知県土佐ジロー協会」会長として、約30年前から「土佐ジロー」の普及に努めてきました。



(土佐ジロー)

高知県土佐ジロー協会

卵・肉兼用の地鶏として土佐ジローは開発され、平成元年頃から県内の生産者にヒナの配布が始まりました。平成2年には生産協議会が発足し、現在では「高知県土佐ジロー協会」として県内の生産者を支えています。

県下全域で約90軒の農家が「高知県土佐ジロー協会」の認可を受けて生産をしていますが、そのほとんどが採卵鶏農家です。会員は、土の上での平飼いや、エサに緑黄色野菜を与えるなどを定めた「土佐ジロー飼養マニュアル」に沿って、飼育をしています。



(土佐ジロー 親子丼)

土佐ジローの卵

もともと土佐ジローは採卵率が低く、年間を通して採卵率の変動も大きいことから、「(有)はたやま夢楽」では採卵用の雌は500羽しか飼育されていませんが、有精卵は一般の食用卵より食味が良いそうです。殻の固さと、黄身の盛り上がりの特徴があり、「土佐ジロー」を食べるなら、最初は肉と卵の両方が味わえる親子丼がお薦めだそうです。

また、「(有)はたやま夢楽」では食肉用の土佐ジローも約5000羽飼育し、加工販売しています。臭みのない歯ごたえのある土佐ジローの肉は、県内外から評価が高く人気があります。

中山間地区へのこだわり

限界集落畑山で養鶏に取り組むのは、「水と環境の良さ、それに人口過密でない場所が土佐ジローの養鶏に向いている。」と小松さん。

大規模経営とは違う中山間地区の特色を活かした飼育方法がここにあると感じます。



(土佐ジロー 卵)



(小松靖一さん)

これからの課題

小松さんは、「今後は高知県と連携して「ヒナの安定供給」を行い、県下全体で需要に応じていく事が大事です。「鶏を鶏らしく育てる」飼育方法で「土佐ジロー」を飼育していきます。」と、力強くおっしゃっていました。



(卵認証マーク)

高知県土佐ジロー協会
TEL: 088-883-8335

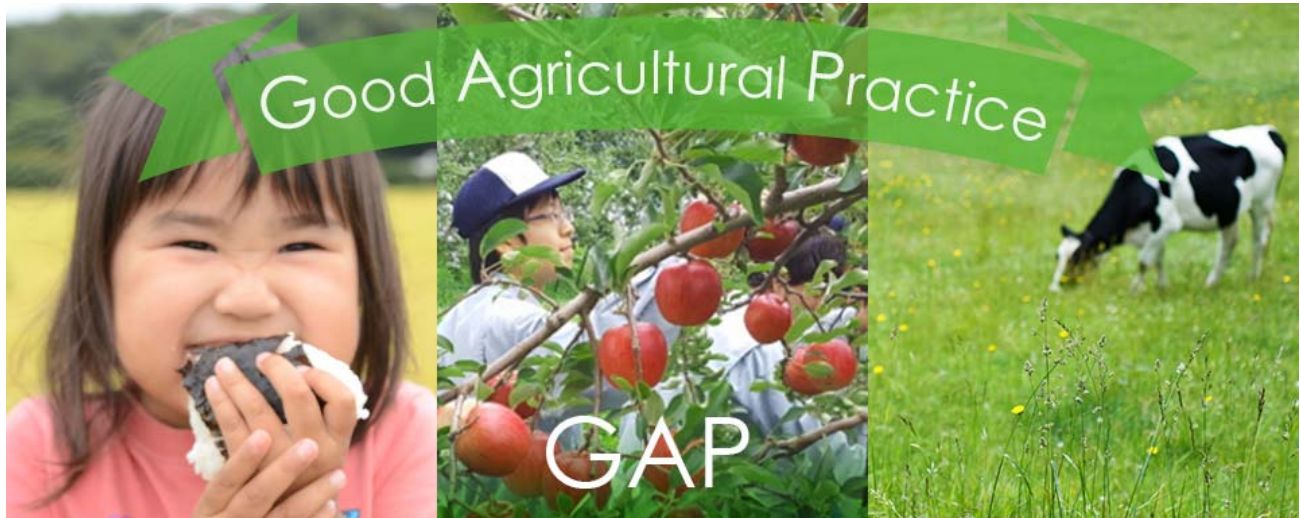
<http://tosajirou.sakura.ne.jp/>

写真提供 : はたやま夢楽

農業の「GAP」ってなに？

消費者、生産者、環境にとって、「Good」な農業の取組のことをGAP(ギャップ)といいます。GAPに取り組むことで、わたしたちが口にする食品の安全や、自然環境の保全、生産者の労働安全や人権の保護に配慮し、将来的に持続可能な農産物の供給の実現につながります。

また、持続可能な取組を求める2020年東京オリンピック・パラリンピックでは、選手村などで提供される料理にGAP農産物が使われます。



農林水産省は9月14日、GAPに関する一般消費者等の認知度向上を目的に、GAPに関する情報発信を強化した情報サイト「Goodな農業！GAP-info」を公開しました。

「Goodな農業！GAP-info」

<http://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/gap/gap-info.html>

【お知らせ】平成30年秋の農作業安全確認運動の展開について

農業就業人口が減少する中、毎年約300人以上発生し続けている農作業死亡事故を減少させるため、秋作業が行われる9～10月を重点期間として、関係団体・企業等と一体となって「秋の農作業安全確認運動」を展開します。

平成30年の運動については、GAP(農業生産工程管理)の周知を通じた現場の改善活動、農業者への安全確保の声かけ・注意喚起等の農作業事故防止対策の取組を推進します。

スケジュール:平成30年9月1日(土)～10月31日(水)(2ヶ月間)

(農林水産省ホームページ)

http://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/enzen/2018_zen_undou.html

編集:中国四国農政局 高知県拠点

〒780-0870 高知市本町4丁目3-41 高知地方合同庁舎

TEL(088)875-7236 FAX(088)872-7531 <農政局HP> <http://www.maff.go.jp/chushi/>

◆ニュースレターに関するアンケートにご協力ください。 <https://www.contactus.maff.go.jp/j/chushi/form/nl180401.html>